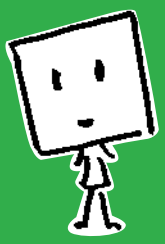
はーい!

男と女が共に歩むための情報誌

Hi,あきしま

vol.29
2010.3



特集

ドメスティック・バイオレンスを考える
「夫婦げんか?それとも暴力?」

昭島市男女共同参画ランキング
～昭島市男女平等に関する市民意識・実態調査より～

どうなる? **どうなる? 夫婦別姓**

● INFORMATION
第三期昭島市男女共同参画推進委員会が提言しました

● BOOK GUIDE
『メディアリテラシーとジェンダー』
～構成された情報とつくられる性のイメージ～
『女性が変える日本経済』

ほか

特集 1 ドメスティック・バイオレンスを考える「夫婦げんか？それとも暴力？」

11月12日～25日（女性に対する暴力撤廃国際日）までの2週間を国では女性に対する暴力をなくす運動期間と定めています。それにちなみ平成21年11月13日（金）に、昭島市保健福祉センター（あいぽっく）視聴覚室において、NPO法人　レジリエンス副代表　西山さつきさんを講師としてお招きし、DV講座を開催しました。その内容の一部紹介します。

☆レジリエンスの活動

レジリエンスでは、「心の傷付き」「心の回復」に焦点をあて活動しています。DVを切り口としていますが、同じような傷付きとして虐待やいじめ、パワーハラスメントなどもあります。「レジリエンス（Resilience）」とは「回復力・復元力・マイナスをプラスに変えていく力」など色々な「力」を意味する英語です。私たちには「レジリエンス」が備わっていますが、何らかの傷付きを経験するとその力が見えにくくなることがあります。無くなった訳ではありません。その見えにくくなっている「レジリエンス」をもう一度再確認することで、自分らしく輝いて生きて欲しいという趣旨のもと活動しています。

☆DVは暴力だけではない！

DVとは親密な相手からの暴力と訳されています。内閣府の調査によると、パートナーから何らかの暴力を受けたことのある人は4人に1人の割合です。私たちの身近で起きている問題であり、一人ひとりがDVについて理解することでDVが起きた時、適切なサポートにつながります。

☆DVの様ざまなパターン

夫婦や恋人などの関係は、お互いが対等で平等な関係からスタートするのが健全なパートナーシップの形です。DVのある状況は、支配と権力がある関係で相手を思い通りにするため暴力が用いられます。この場合の暴力は、殴る蹴るなどの暴力だけでなく、経済的・精神的・性的な暴力があります。

☆トラウマ（心の深い傷つき）

暴力に共通するのは目に見えない部分で心の深い傷付き（トラウマ）を抱えることです。心の傷は10年前、20年前の時間の経過だけでは良くなりません。目に見えない心の傷に気付き、手当を行っていくことが大切です。パートナーとの関係性を確認してみましょう。

DVの種類

- 身体的暴力―殴る、蹴る、つかむ、物を投げつける、噛む、凶器を使う等
- 性的暴力―無理強いなセックス、避妊に協力しない、性的な罵り、撮影等
- 経済的・社会的暴力―生活費を渡さない、働かせる・働かせない等
- 精神的暴力―馬鹿にする、家族や友だちに会わせない、ストーカー行為等

あなたも「支配があるか」チェックしましょう！

「相手からの支配」があるかどうかを調べるチェックリストがあります。

支配があるかのチェック

- □パートナーの言うことは絶対だ
- □自分の希望をパートナーに伝えるのはとてもエネルギーがいる
- □パートナーが帰ってくると緊張する
- □パートナーを恐れている
- □パートナーがいる前で電話をしたくない
- □パートナーを待たせることはできないと思っている
- □自分がどう感じるかよりもパートナーが怒らないかが基準になっている
- □予定より遅く帰るなんてできないと思っている
- □パートナーの言動に意見できないと思っている
- □たとえ間違っていると思っても、パートナーに同調しなくてはならない
- □パートナーに自分の本音は絶対に言えない
- □パートナーが怒りだすと、なんとかなだめようとしてしまう
- □パートナーが機嫌が良い状態であるためにはどんなことでもすると思う
- □どんなに自分が楽しんでいてもパートナーの機嫌が悪くなるともう楽しむことはできない
- □パートナーのセックスの要求は断れないと感じている
- □自分のほしいものでもパートナーが良い顔をしなければ買えない
- □子どもがパートナーの気に入らないことをするとすごくあせる
- □パートナーについたうそがばれるのが怖くてしょうがない

「NPO法人レジリエンス著『傷ついたあなたへ―わたしがわたしを大切にすること―』梨の木舎　2005」より

NPO法人　レジリエンス　http://resilience.jp/

混乱する会話について

会話のキャッチボールをしたい●さんとドッチボールをしている▲さん

左の例のように竜巻会話では、●さんが会話の軌道修正をしようとして、謝ったり説明したりしようとすればするほど、つまりボールを投げれば投げるほど、痛いボールがどんどん返ってきてしまいます。●さんは非常に混乱し、まるで竜巻にでも巻き込まれたような感覚に陥り、なんだか自分が悪かったような気になって罪悪感まで抱くようになってしまいます。

また、論理的につながっていない会話なので、記憶することができません。ですから、このことを他の誰かに相談しようと思ってもうまく説明することができないのです。DVではこのように被害者が自分の状況をうまく説明できないことがおきてくるのです。

竜巻会話

▲（ぶすっとしている）
●「今日、何か会社であったの？」
▲「別に…」
●「元気ないんじゃない？」
▲「うざいなあ。いつも元気でいろって言うのかよ」
●「そんなつもりで聞いたんじゃないわよ。心配だから…」
▲「うるさい！」
●「ごめん…」
▲「何を謝ってるんだ？とにかく謝っとけばいいと思ってんのか？」
●「……」

右の会話は決してDVだと言っているわけではありません。しかし、この関係は尊重に欠けています。自分の意見だけがOKで、自分とは違う相手の意見をOKではないとしています。

自分の考えだけが普通、常識で、みんなこうしているのだと決めつけてしまっています。強く否定された相手の方は「自分がおかしいのかな?」とだんだん自信をなくしていき、自分らしさを失っていきます。

尊重のない会話を日常生活の中で毎日一方的に受けていたらどうなるでしょう。カレーの作り方、洗濯物の干し方、歯磨き粉の使い方、その一つ一つに「お前はバカだ」「常識がない」などという否定的な言葉を受け続けていると、言い返したり他人に説明したりするのが困難となり、自分の心に小さな傷をどんどん増やしていくことになります。やがてそれがたくさんの大きな傷付きとなって残ってしまうのです。

尊重のない会話（コーヒー編）

お前コーヒーに砂糖なんていれてんの？
うん、甘いのが好きなんだ。
マジで！コーヒーに砂糖なんて邪道だよ。
え～、そう？おいしいよ。
はぁ～？普通いれないだろう、まずそっ！
おかしいかなぁ…。
絶対変だよ、砂糖なんて入れるやつなんていないぜ。こどもじゃないんだから。
そうなんだ…。
当たり前だよ、そんなの常識だよ。なんでそんな事わかんないんだよ。

一方、自分もOKで、自分とは違う相手の意見もOKだというようなコミュニケーションをとるのが尊重です。「普通はこうだ」「これが常識だ」などと自分の意見が世界基準のような言い方をせず、答えや方法は一つではないと、自分の意見も相手の意見も尊重していくことを広めていきたいと思います。

私たち一人一人ができることを考えた時、相手に対する尊重を増やしていければ、暴力を減らしていくことにつながるのではないかと考えています。

互いが尊重しあっている例（コーヒー編）

コーヒーに砂糖いれるの？
うん、甘いのが好きなんだ。
そうなんだ。甘いものはあまり飲まないからな。
へ～、そうなの。美味しいよ。
今度一度試してみようかな。ブラックも慣れるといいよ。
じゃあ、今度一緒に色々試してみよう。

～講座に参加して～

まず、レジリエンスでは支配する人＝加害者のことをBさん、支配される人＝被害者のことを☆さんと呼ばれるそうです。☆さんってとってかわいい呼び方で、すてきだな、と感じました。

正直なところ講座をお伺いするまでは、「ドメスティック・バイオレンス」なんて私には関係ない世界、と思っていました。私は自分が☆さんではないことは自分の中ではっきりしていましたが、そうかと言って、まさかBさんであるはずもない、と思っていたのです。ところがお話をお伺いするうちに、そのまさか、かもしれないと思い当たる節が出てきました。それは夫に対してではなく、子どもに対する私の態度です。ときにとてもきつい口調で子どもを責め立てていることがある、と気がついたのです。講師の西山さんは「いかなるときでも暴力は認められない。暴力以外の解決方法がある」と言われました。私は自分の考えが絶対に正しいと思いこみ、子どもを見下すことがあったのではないか、と思い当たり、認めたくないことですが、Bさんをやっていたのかもしれない自分にぞっとしました。知識不足が原因で自覚がないということは恐ろしいことです。

講座のおかげで「ドメスティック・バイオレンス」に対して、認識を新たにしなければならないことだと自覚することができました。今後は自分を戒め、Bさんにはなりたくないものです。

F

特集2 昭島市男女共同参画ランキング

昭島市男女平等に関する市民意識・実態調査より

調査方法

調査対象	昭島市在住の満20歳以上の男女2,000人
抽出方法	住民基本台帳からの無作為抽出
調査方法	郵送配布－郵送回収
調査期間	平成21年5月29日（金）～6月12日（金）

回収結果

回収数	918（45.9%）	
	男性	374（40.7%）
	女性	544（59.3%）

家庭生活

男女の仕事、家事・育児の役割分担については、「男女ともに仕事をし、家事・育児も平等に分担するのが望ましい」と考える人が、半数を超える結果となりました。

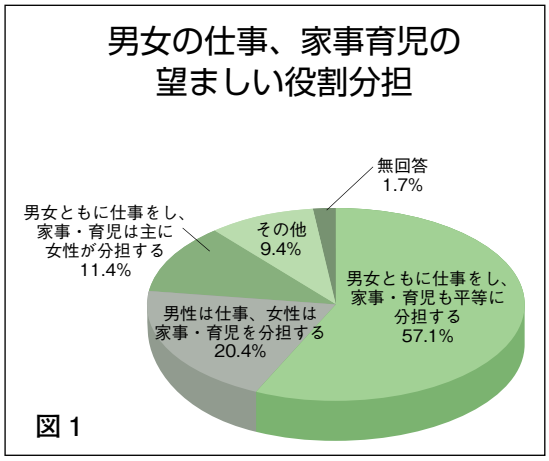


図1

しかしながら、実際に誰が家事・育児を担当しているかを「食事の支度」等の各項目に分けて尋ねたところ、半数以上の項目において、「主に妻が担当している」割合が50%を超える結果となり、理想と現実は大きくかけ離れているのが現状です。また、回答を男女別にみると、家事・育児の分担について「夫婦で分担している」と思っているのは、女性よりも男性の方が多く、男女間に意識の差が見られました。

配偶者やパートナーに期待すること Best3

男性		
第1位	趣味など楽しむ物をもっていること	40.1%
第1位	家事をしっかりすること	40.1%
第3位	おたがいの自由を尊重すること	38.5%
女性		
第1位	一定の収入を得ること	71.5%
第2位	価値観が同じであること	42.1%
第3位	おたがいの自由を尊重すること	35.7%

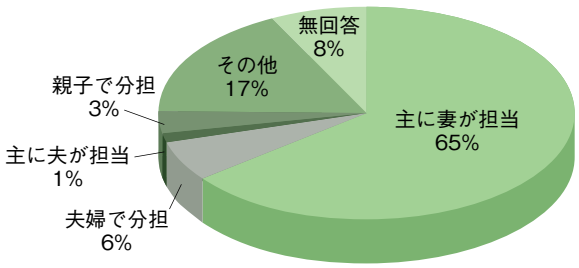


図2

子育て・教育

子どもの育て方を尋ねたところ、「男女同じ育て方が良いと思う」と回答した人が、男女共に60%を超える結果となりました。平成11年度調査と比較すると、「男女違う育て方が良いと思う」人の割合は、大きく減少しています。

男女同じ育て方がよいと思う人の育て方 Best3

第1位	思いやりのある人に	86.9%
第2位	家庭を大切にする人に	34.2%
第3位	判断力（決断力）のある人に	30.5%

性別で回答を比較してみると、男女ともに「思いやりのある人に育てたい」と思っている人が一番多く、次いで女性は「家庭を大切にする人に・生活力がある人に育てたい」と思う人が多く、男性では「判断力（決断力）がある人に・生活力のある人に育てたい」と思う人が多く、違いが見られました。パートナーとの関係性を確認してみましょう。

「男女違う育て方が良いと思う」と回答した人のなかでも、男女での男子・女子に対する思いが異なる結果になっています。

男性は、男子を「思いやりのある人に・生活力のある人」に育てたいと思い、女子を「思いやりのある人・家庭を大切にする人」に育てたいと回答している人が多い。

女性は、男子を「生活力のある人に・思いやりのある人」に育てたいと思い、女子を「思いやりのある人・家庭を大切にする人」に育てたいと思っている人が多いという結果になりました。

しかしながら、幼いころから男女平等観を育成していくことは必要であると感じている人も多いことが、次の結果からわかります。

男女違う育て方がよいと思う人の育て方 Best3

男子		
第1位	思いやりのある人に	51.1%
第2位	生活力のある人に	50.0%
第3位	判断力（決断力）のある人に	36.4%
女子		
第1位	思いやりのある人に	77.3%
第2位	家庭を大切にする人に	50.0%
第3位	情緒豊かな人に	37.5%

安心して子どもを生み育てられる社会にするために必要なこと Best3

第1位	教育に係る費用を軽減する施策を進める	41.5%
第2位	保育に係る費用の補助など経済的支援をする	34.3%
第3位	親の就労形態や通勤時間に応じた保育施策をすすめる	29.5%

男女平等を推進するために学校で取り入れて欲しいこと Best3

第1位	生活指導や進路指導において男女の区別なく能力を活かせるよう配慮する	42.0%
第2位	男女平等の意識を育てる授業をする	34.3%
第3位	学校生活で生徒の役割分担に性別で差をつけない	29.3%

就労

男女が働きやすい環境をつくるために重要なこと Best3

第1位	子育て・介護などの両立支援制度を充実する	62.6%
第2位	男性の育児休業・介護休暇制度の利用をすすめる	34.1%
第3位	労働時間の短縮などの労働条件を改善する	30.9%

女性が働く上での障害 Best3

第1位	仕事と家事育児との両立が難しい	64.2%
第2位	保育施設などの整備が不十分である	50.4%
第3位	給与・休暇などの企業の労働条件が整っていない	23.1%

女性が仕事を持ち続けたり、一度やめて再び仕事を持とうとするうえで、男女ともに6割以上の人が「仕事と家事育児との両立が難しい」ということを感じている結果がでました。また、そのためにも「子育て・介護などの両立支援制度が充実されること」を望んでおり、今後の課題となってくるでしょう。

セクシュアル・ハラスメント

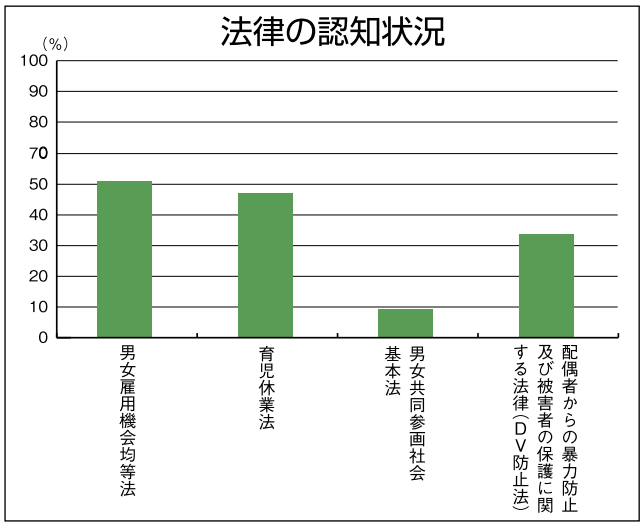
セクシュアル・ハラスメント被害 Best3

第1位	「女のくせに（女だから）」「男のくせに（男だから）」と性差別的に言われた	14.2%
第2位	必要もないのに身体をさわられた	11.4%
第3位	宴会でお酌やデュエットを強要された	9.0%

50%以上の人が、「受けたことがない」と回答しているものの、依然として被害を受けている人がいるのが現状です。言葉を発する前や行動を起こす前に、相手に不愉快な思いをさせることかどうか、考えることが大切です。

男女共同参画の実現にむけて

男女共同参画を進めるために制定された法律について、認知状況を調査したところ、「知っている」と回答した人は、次のような結果になりました。



「男女共同参画社会基本法」についての認知度が大幅に低くなっています。また、昭島市で行っている男女共同参画を進めるための事業についても、ほとんど知られていない現状が明らかになりました。

男女共同参画社会の実現に向けて、まずは「男女共同参画」について知ってもらうことが大切です。

今後、啓発事業に力を入れていきたいと思います。

どうなる？ 「どうなる？ 夫婦別姓」

政権が代わって、今にわかに話題となっているのが「夫婦別姓」についてだ。世界的には当たり前となっている「夫婦別姓」だが、未だに「家」意識が色濃く残っている日本ではまだまだ慎重論が多い。しかし、「同姓」を法律で強要している国は先進国の中でもはや日本だけとも言えるのが現状。

実は歴史的にみても古くは源頼朝と北条政子のように、日本でも昔は「夫婦別姓」であって、今のように同姓が義務付けられたのは明治31年の民法からであるから、歴史的にはまだ100年余りと浅いものなのだ。

今、時は平成、21世紀だ。これだけ時代も変わってくると、改姓を強要されることにより、社会的実績や信用の断絶、手続きの煩雑さ、自己喪失感などから不平等感を感じる女性が増えてきても不思議ではない。女性は家にいればよかった明治時代の法律のまま、何も改正されないというのは確かに無理があるのかもしれない。

ちなみに、反対論者の多くは「別姓」になると家族の一体感がなくなると意見しているが、「別姓」国である中国の知人女性の話では、「一体感がなくなるとは子どもの頃から一切感じたことはない。むしろ日本の方が不思議だ」と言っていた。

今や「別姓」でも「同姓」でもどちらでも選択でき、別姓を選んだ場合でも、状況に応じて配偶者の姓を名のることもできるという国もある。

今まで結婚したら女性が男性の姓に改姓するのが当たり前だと思っていたが、何が本当に当たり前なのか、改めてよく考えてみたいと思う。「昔は妻は夫の姓にならなきゃいけなかったんだって～」「信じられない～」なんていう会話が聞こえてくるのも、そう遠い将来のことではないのかもしれない。　K

BOOK GUIDE

今年度新しく購入した本です。
男女共同参画ルーム「おあしす」
にあります。

ありふれたメディアの中に潜む「らしさ」

『メディアリテラシーとジェンダー』
—構成された情報と
つくられる性のイメージ—

諸橋泰樹著
現代書館　2009年6月

本書はメディアであるテレビ、雑誌、新聞を素材とし、具体的かつ「クリティカル」(批判的、批評的)に「らしさ」を読み解いている。私たちが日々さらされているメディアの中に社会的・文化的・歴史的に構成された女らしさ・男らしさ(ジェンダー)が組み込まれていることに気付かされる。ならばこれを「クリティカル」に読み解く力、すなわちメディアリテラシーが重要となるが、本書では具体的に事例をあげ理解を助ける。例えば「構成されたメディアと構成されたジェンダーの親密な関係」や女性雑誌を素材とした内容分析によりメディアが女性を思考停止させ、女性としての勝ち組(セレブ)を志向させていることを読み解いている。

私たちには「ちょっと待って、その情報!」という自分で判断し、読み解く能力を備えることが今問われている。即座に身につく能力ではないからこそ学校現場、特に図書館教育でのメディアリテラシー教育が鍵を握る。

ウィミノミクス(女性経済学)の扉を開く

『女性が変える日本経済』

小峰隆夫・
日本経済研究センター編
日本経済新聞出版社　2008年11月

本書は「女性の働き方、企業内での役割、貯蓄の仕方、使い方、金融力などの変化」についてデータを基に分析し、まとめている。分析により女性の経済力の変化、消費行動の男女の違い、また経済力のある女性の消費行動から女性が経済に与える様ざまな影響を体系的に捉えた初めての本である。例えば女性の消費行動傾向は男性に比べると慎重だが、欲しいものが見つかるまで店を回り、価格より品質を重視する。最も男女で異なるのは金融行動で、女性は金融資産の運用面でも株式、投資信託、外貨建て商品など、リスク性金融資産の保有が少ない。老後の暮らしや不測の事態に対する不安・心配に備え貯蓄をする女性が多いと分析している。資産残高が高い女性は今後のマーケットとなり、企業が女性を活用することで経済力が高まり、消費行動や金融行動が活発化し、日本経済が活性化するという仕組みが見えてくる。

「女性がこれからの日本経済を変えていく」「女性の力を活かすことこそが、日本経済活性化の鍵を握る」というメッセージを伝えようとしている。

INFORMATION

第三期昭島市男女共同参画推進委員会が提言しました

昭島市では、男女共同参画社会の実現に向け、平成13年3月に2回目の行動計画「あきしまジェス21－昭島市男女共同参画プラン」(平成13年度～22年度)が策定されました。

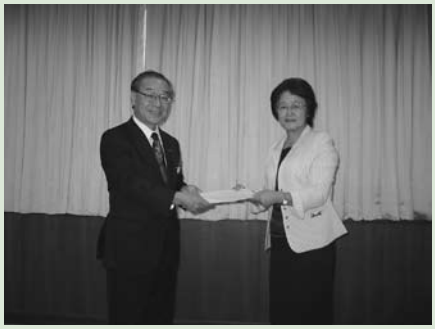
この行動計画の進捗状況を検証するために、平成20年に4月には、公募市民3名を含む7名の委員で構成される「第三期昭島市男女共同参画推進委員会」が設置され、平成18年度及び平成19年度の進捗状況を確認し、報告書にまとめたものを市長に提出しました。その概要を次に紹介します。

成果があったもの(市の取り組みに評価できるもの)

◆社会教育関連事業における、女性リーダーの増加
◆学校教育における男女平等の推進、混合名簿の定着、教職員に対する意識調査の実施
◆保育園、学童クラブの障害児受入れの拡充　　など

提言(市が今後取り組むべき課題)

◆男女共同参画の施策・事業を見直し、事業評価方法を検討する
◆親学級の開催と男性参加の促進
◆民生児童委員体制の充実　　など


委員長より市長へ報告書の提出

次期男女共同参画プランの策定に向けた課題

◆男女共同参画社会の実現に向けた施策や事業の関係を明確化し、施策・事業の見直しを行う
◆事業の進行状況の数値化　など　　※詳しくは、昭島市ホームページへ　http://www.city.akishima.lg.jp/

韓流レポート

Hi, あきしま

今回は昭島市民で、
20年韓国に在住していた
オンマさんに、
出張レポートで
韓国現地のようすを
インタビューしました。

韓国の女性像にも
日本でいう「良妻賢母」の
イメージは強くて、

社会的出世よりも
家事をしている
イメージが80年代は
強かったようです。

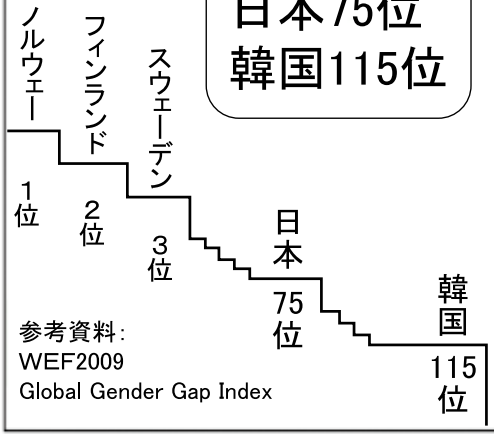
最近はめっきり
夫婦の共働きが
増え、実力派の
女性が注目されて
います。

5万ウォン札の人物が
女性に選ばれたり…

2009年世界経済フォーラムの
男女平等国家指数によると、

日本75位
韓国115位

韓国もまだまだ
女性の社会参加が
低いんですね～



参考資料:
WEF2009
Global Gender Gap Index

韓国でも、
女性の社会参加を
活性化させるために
さまざまな活動が
行われています。

経済克服のための
女性リーダーシップ教育

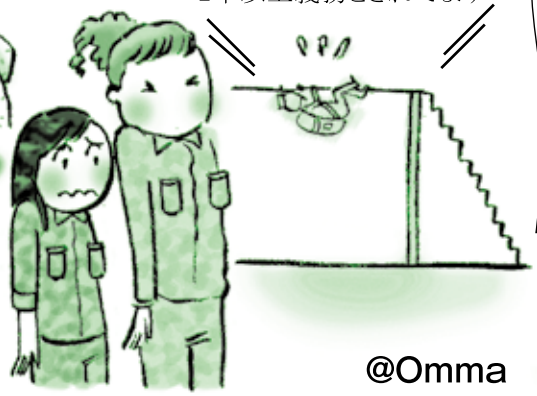
女性による環境保護運動

韓国のあるテレビ番組で
出演者が男女の立場を変えるというと…

男はキムチ漬け！

女は軍隊訓練！

…という姿でした。



韓国の男性は軍役が
2年以上義務とされてます

男と女の立場が、
国によっては
違うことを知りました。
ひとつの社会、ひとつの国を
共に築く一員として、
男女が平等に機会を得て
能力を発揮することは
どこの国でも重要な
課題であると感じました。

@Omma

Hi, あきしま　第29号　2010年3月20日発行　　編集『Hi, あきしま』編集委員会　　発行　昭島市企画部企画政策室
TEL　042(544)5111(内線2373)　　FAX　042(546)5496
編集委員　　安部　直子・兼本　富士子・原　幸子・前川　佳津恵・渡邊　啓子　　イラスト　オンマ

PRINTED WITH SOY INK
この印刷物は古紙を利用しています